

〈喫煙室〉

## 新春 雜感

(統計課)酉年生まれの方の中から“ひと言”

### 雑感



商工農林グループ  
係長 松本邦勝

あけましておめでとうございます。

本年もよろしくお願ひします。

昔の話をするのは年をとった証拠といいますが、5回目の干支(48歳)を迎いろいろと思い出せば、3回目の干支のころは一眼レフカメラや自家用車を購入してドライブや旅行を楽しみ、4回目の干支のころはプログラムを開発し、現在は工業統計調査を担当しながら、OA機器を活用しています。

6回目の干支には21世紀を迎、また退職する年になるので、残りの12年間を有意義に過ごす為には、まず健康を第一に、次に趣味を生かし充実した生活を確保しながら実りある仕事もしたいと思います。

21世紀には、科学も今以上に急激な進歩をとげ、また仕事においても多種・多様化して、皆様にはなにかと御迷惑をお掛けするかもしれません、今後ともよろしくお願ひします。



### 3回目の年男

人口労働グループ  
主任 坂内敏

織田信長の時代は、人生50年であったが、現在の平均寿命(正確には平均余命)は約80歳となっており、3回目の年男となった私でさえ、長い人生では折返し点にも達していません。

この様に未熟な私が過去を振り返えるのもおかしいが、反省をこめて12年前の状況を書いてみたいと思います。

私は昭和55年に県職員となり、12年前は麻生県税事務所におり、自宅から遠いことから県職員住宅に居住しておりました。ここには独身男性が居住していると共に、事務所の独身者が多数出入りし、時には焼肉屋やスナックなどの宴会、またある時はマージャン大会と、大変楽しい日々を過

ごしております。

今、思いおこすと、当時の仲間は現在でも大切な男友達であり、県職員仲間以上の友人をこの時代に得たことを感謝しています。これからも友人を大切にする生活を送りたいと考えております。



### 私の年賀状

商工農林グループ  
主任 藤ヶ崎匡彦

午前5時半、北国の朝は平地でも高原の霧氷気が漂う。車は国道5号線を一路北上し、今日の撮影地点である函館本線「然別～銀山」間を目指す。鉄橋の下に車を止め線路際を歩くこと15分、切り通しの上にポジションを確保し、三脚を立てカメラを設置する。春から秋にかけて、函館本線の「小樽～ニセコ」間では、『C62ニセコ号』というSL牽引の臨時列車が運行される。その撮影にはるばる北海道までやって来たのである。

C62は、かつての特急用の機関車で東海道本線や常磐線で特急列車の先頭に立っていた。私がC62を始めて見たのは、ちょうど24年前の酉年、山陽本線の糸崎駅であった。それ以来SLの魅力にとりつかれて、北海道から九州まで撮影に飛び回ったのである。SL廃止後も各地で観光用にSLが運転されていたが、昭和63年にC62が復活した時は、感慨無量であった。

こうして撮影したC62をポストカードにして毎年年賀状を作成している。存続が危ぶまれているC62の運行であるが、1年でも長く走り続けてほしいものである。



### 結婚披露宴

消費生活グループ  
主任 高丸忠雄

つい先日、従兄弟の結婚式に招かれた。洋食のフルコースであった。私には初めての経験であったので、感じたことを述べてみると、

1. 酒類はボーグが注いでくれるので、自分のペ

## ◀喫煙室▶

ースで嗜むことができる。（ただ日本酒がないのが残念）

2. 料理は少しづつ配ばれるため、食べ残しがなく経済的。（ナイフの使い方の練習にもなる）
3. 酒に酔って大騒ぎをする人もいないため、祝辞等、他人の話を良く聞くことができる。
4. カラオケがないため、披露宴には恒例の「娘よ」「祝船」等々の歌を聞かずにはすむ。（上手ならばよいが決って近所のカラオケ好きが歌うことが多い）……ことであった。

しかし、裏を返せば洋風の欠点でもあるようだ。私のような田舎者には、鯛のお頭つきの日本料理が好きだし、また賑やかで笑いのたえない楽しい披露宴が似合っているため、何か物足りなさを感じ帰路についた。



### 1993年を迎えて

人口労働グループ

主事 小林里香

昨年は私にとって、統計課への異動という大きな変化のあった年でした。

新しい仕事と生活環境のため、あっという間の一年間でした。日常生活も職場と家の往復のみ、という単調な生活でした。

そのためすっかり運動不足になってしまい、たまに買い物とかで長時間歩ったりすると、翌日は足が痛いという、年齢の割にはすっかり体力が落ちてしまいました。

そこで今年は余暇を利用して、自分なりに何かスポーツをしてみようと思います。体力を一朝一夕でつけることは無理ですが、少なくとも買い物程度で体が痛くなることのないようにしたいと思います。



### 新年にあたり

人口労働グループ

主事 福永幸一

酉年を迎え、社会人の一人となってから、もう9ヵ月が過ぎてしましました。瞬く間に過ぎ去っ

てしまったこの9ヵ月の間に、どれだけ自分が変わったのかよくわかりませんが、時間の大切さだけは少し分ったような気がします。しかし、もともと怠け者で忘れっぽい私は、なかなか反省したことを見つけることができません。そのため、無駄な時間を過ごしたと後悔することしばしです。

個人的なことですが、昨年末に私は、パソコンを購入しました。この原稿の下書きにも使っているのですが、まだ説明書を見ながらMS-DOSだ、WINDOWSなど何がなんだかわからないまま、主にゲームをやっています。せめて、本年中に自分のシステムぐらいわかるようになりたいと思います。

忘れずにつけておきますが、本年こそ仕事で迷惑をかけないようにしたいです。



### 新年にあたり「天職」を考える

商工農林グループ

主事 糸賀一史

「天職」。見つけ出すことは意外に難しい。私の知り合いにも悶々と悩んでいる人間は少なくない。遅い社会的自立を指して言う「30歳成人式」という気持ちの悪くなる言葉も、平均寿命80歳の時代ということもあって、あながち馬鹿には出来ない。まあ世界の終わりが明日でも自分の「天職」を続行したいというのが理想ではないだろうか。とはいえる間の心理とは全く不可解なもので、某コラムニストも「ときどきサラリーマンにもどりたくなる。」なんてことをおっしゃっている。その一方で、潜在的にフリーにあこがれる会社員も多い。いずれにせよこの重大な「労働」問題にばっかりは、人間適度に苦しめられたほうがいいのかもしれない。電通、ソニー、三井物産、どこでもどうぞ、となったら、人間本来にそなわっている自律的な力など多分でできやしないだろう。アプローチの選択肢がありすぎて、スタイルの見えない今の日本車の悲劇はまさにそれと一緒に。制約のくぐりぬけ方からこそ、その人間のスタイルの一貫性、つまり「天職」が見えてくるはずだ。